

自分なりの語学学習を探すためのヒント

吉井 誠

(第二言語習得・英語教育)

皆さんはこれまでどのように英語を学んできましたか。学習法に関して様々な本が出版されています。色々な人が色々な方法を紹介しています。情報が溢れている中で、どれが一番の学習法なのでしょう。結論から言うと、万人に共通する、これが一番の学習法は存在しません。皆さん一人一人が自分に合った学習法を探し、自分なりの方法を編み出していかなければいけません。その参考の一つとして、バランスの取れた言語学習についてお話します。これは第二言語習得研究の研究者である Paul Nation 博士が推奨している“Four Strands”（4つの要素）に基づいたものです (Nation, 2007; Nation & Yamamoto, 2012)。1つは「意味を重視したインプット (meaning focused input)」、2つ目は、「意味を重視したアウトプット (meaning focused output)」、3つ目が「言語項目を重視した学び (language focused learning)」、そして4つ目が「流暢さの向上 (fluency development)」です。言語を学ぶときに、4つの要素をバランスよく取り入れながら学習することを薦めています。バランス良くと言っても、皆さんそれぞれのレベルに合わせて調整する必要がありますし、その言語を学ぶ目標によっても変わってきます。この4つの要素を取り入れながら、皆さん自身が自分に合った具体的な方法を考えて欲しいと思います。これからその要素を紹介していきます。今回は、その中でも最初の項目、「意味を重視したインプット」について紹介します。

4つの中でも一番大切なのは読んだり聴いたりするインプットです。インプットは言語を習得する際に不可欠です。母語を獲得する時もインプット（聴くこと）から始まりますが、第二言語を習得する際もとても重要です。言語習得の研究者の中には、インプットさえあれば、自然に言葉は学べるとさえ主張する人もいます。そしてここでのポイントは「意味を重視したインプット」であることです。ただ単にインプットを受けるのではなく、意味のある、内容を伴うインプットでなくてはなりません。この点については最後に具体的なお話しをします。

インプットについて二つ注意しておきたいことがあります。1つは、インプットのレベルです。いきなり難しいものを読んだり聴いたりしても理解できず、フラストレーションがたまるだけです。自分のレベルにあったインプットが必要です。今の自分のレベルより少し背伸びをすれば届くようなレベルのものが良いという人もいます。難しい判断ですね。自分のレベルがどこで、それよりも少し高いレベルとはどこなのか、どのように判断したら良いのでしょうか。インプットの内容がどれくらい理解できるかがカギになりそうです。読むことに関して、一つ例を紹介しましょう。1ページ読む際に、辞書や注釈なしに読んで分かるものが、皆さんの今のレベルに合ったものと言えます。いくつか分からない単語や文法が入っていても構いません。むしろ、その方が言語の習得には理想的な読み物です。推測しながら内容のほとんどが理解できる限り、その読み物はその人のレベルに合ったものと言えます。このように、読んでほとんど分かるものからスタートしてください。そこから少しずつ、レベルを上げて行くと良いでしょう。ほとんどが理解できる程度が自分のレベルで、その中には分からない単語なども含まれているものが、少し高めのレベルとなります。インプット受けていく過程で、背伸びし過ぎて理解がおぼつかない状態に陥らないように気をつけて下さい。

注意しておきたいことの2つ目です。インプットは大量に受ける必要があります。ちょっとずつではなくて、まさに浴びるようにインプットを受けるのです。もちろんこれは理想的な見解です。現実には、忙しい毎日を送っている中で、そんなに時間をとることは困難でしょう。では出来ることは何でしょうか。それは、工夫することでインプットを受けることを地道に増やすことだと思います。では、そのコツは何でしょうか。それは、インプットの中味、材料を工夫することです。勉強のため、英語力を上げるためだけでは長続きしません。そうではなく、皆さんが知りたいこと、興味を持っているもの、面白いと思うもの、続けて読みたい、聴きたいと思える材料を探すことです。好きなアーティストについて、映画について、趣味の料理やスポーツ、スポーツ選手、何でも構いません。何か見つかるはずですが、難しいのは、自分のレベルに合った物を探すことです。今は、たくさんの英語学習者用のサイトがあり、皆さんの興味にあった内容を紹介してくれるのが見つかると思います。もしどうしても見つからない場合は、日本語に翻訳して、それを参照しながら英語に目を通すことも可能です。日

本語に翻訳してくれるサイトやツールもたくさん存在します。本に関しては、Graded Booksと呼ばれる、レベルに分けた短くて読みやすい本がたくさんあります。その中に皆さんのレベルに合って興味を持てる題材の本が見つかるはずで、とにかく、皆さんが夢中になって観たり聴いたり読んだりできるものを探して、たくさんインプットを受けていってください。内容が面白いと（意味重視）きっとインプットの量も増えていくことと思います。

このエッセイでは最初の要素「意味を重視したインプット」についてお話ししました。いつかまた残りの3つの要素についてお話しできればと思います。それまで、皆さん、英語で読んだり聴いたりすることを楽しみながらインプットを増やしていってください。

参考文献

Nation, I. S. P. (2007). The four strands. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 1(1), 1-12.

Nation, P., & Yamamoto, A. (2012). Applying the four strands to language learning. *International Journal of Innovation in English Language Teaching and Research*. 1(2), 167-181.